（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（　　熊本県立翔陽高等　　）学校　令和５年度（２０２３年度）学校評価表

1 学校教育目標
未来のくまもとを支える地域人材の育成

2 本年度の重点目標
1 総合学科の多様な教育内容と教育活動、それらを生かしたキャリア教育をとおして、職業観、勤労観（キャリアプランニング能力）とともに様々な課題に対応する力（課題対応能力）を高め、多様な文化や価値観を理解し（多文化理解）、広い視野を持って行動できる生徒を育成する 2 生徒が主体となる活動をとおして、自己を理解する力（自己理解）と自己をマネジメントする力（自己管理能力）を高め、自己に自信と誇りを持てる（自己効力感）生徒を育成する 3 生徒同士が力を合わせて学びあう活動をとおして、物事を多面的に見る力（豊かな感性）を高め、自他の個性を尊重しつつ他者を大切にする（他者尊重の態度）生徒を育成する

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○総合学科らしい教育課程の編成 ○進路選択に合わせた適切な科目選択	○教務・総合学科研究部が連携した教育課程検討委員会の実施 ○授業見学等をとおした科目選択ガイダンスの充実	A	○生徒の進路・興味関心に応じ選択の幅が広がるようにした。 ○全系列で、授業見学会を実施した。
	開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	○学校の取組や学校の最新情報の発信	○ホームページ・ＳＮＳ等による情報発信 ○広報委員会・ＩＣＴ運営部を中心に年次・系列が連携した学校の最新情報の発信	A	○ホームページなど各部門から情報発信されるようになり、閲覧者も大幅に増加した。
			○地域企業へ本校教育活動の発信と情報交換	○地域企業との情報交換会、地域工場見学会等の実施	A	○地元企業への就職状況も良好である。
	業務改善	各校務分掌における課題の洗い出しと改善	○職員間の情報共有と連携 ○課題の共有と、課題解決に向けた組織的な共通実践	○管理職による各分掌部の課題等の聞き取り及び管理職への適切な報告・連絡・相談 ○課題解決のための組織体制の構築と業務分担 ○ＩＣＴも活用した業務の効率化 ○業務の見直しと次年度計画の策定	B	○職員の情報共有はＩＣＴも活用し、効率化と速やかな対応につなげることができた。 ○課題解決に向けては組織的な取組をより一層推進する必要がある。
	働き方改革	セルフマネジメントの育成	○時間外勤務時間４０時間以内（1日 20 分の業務短縮） ○年次有給休暇年１２日以上の取得	○定時退勤日、一斉休業日の設定 ○ＩＣＴを活用した会議時間等の短縮 ○時間外業務管理	B	○時間外勤務は平均４０時間で概ね達成できた。 ○会議等のオンライン化、夏季５連休の実施、年休平均１５日を取得できた。

学力向上	学力の向上	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究	○観点別学習評価における校内研修を年３回実施 ○「指導と評価の一体化」の推進	○外部講師を招聘し、教科毎にワークショップ形式で実施 ○「指導と評価の計画表」作成と効果的な評価の在り方に関する理解の深化	A	○年３回の校内研修を実施し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と指導と評価の一体化について職員の理解が深まった。来年度の「指導と評価の計画表」の見直しと改善が課題である。
			○校内公開授業週間を年３回実施 ○同一教科と他教科の授業において各１時間以上の参観	○職員の参観率の向上 ○事前案内や呼びかけ、実施後の参観メモの提出依頼、教科主任への参観状況の確認等を実施	B	○年３回の公開授業を実施し、学校全体で取り組むことができた。11 月 14 日の公開授業日は保護者の参加率が３％と、開かれた学校づくりという視点からは課題が残った。
		学習習慣の確立	○家庭学習時間調査を年２回実施 ○考査前及び平常時の学校全体の平均学習時間を 10 分以上増加	○昨年度の考査前と平常時の学校全体の平均学習時間の差が 71 分(考査前 107 分、平常時 36 分)であったため各教科と連携を図り、平常時の課題や単元テスト等の促進	C	○教科毎に課題の質と量を見直し単元テスト等に取り組んだ。今年度の考査前と平常時の学校全体の平均学習時間の差は、77 分(考査前 109 分、平常時 32 分)と改善せず、家庭学習の充実が課題となった。
キャリア教育	キャリア教育の推進	職業観の育成	○「働くこと」に対する理解の深化 ○自己理解の推進	○外部講師による研修会等の実施 ○教材エナジードの積極的活用 ○外部の適性診断テスト活用による自己理解の促進	A	○全生徒対象の研修会を１回実施した。 ○自己理解を踏まえ、未来と結び付けて進路について考えさせることができた。
		キャリア教育のシステム化	○科目「産業社会と人間」の充実 ○インターンシップの充実 ○３年次総合的な探究の時間の充実	○自らの進路選択との関係性を明確にした職業研究プロジェクトの実施 ○企業開拓及び全職員の協力による事前事後指導の充実 ○幅広い分野とのつながりを持った探究活動の実施	A	○自分の興味関心と結び付けて調査させることができた。 ○108 事業所で 262 名が無事研修を終えることができた。

						○それぞれの系列の特性に応じた探究活動が実施できた。
	進路保障	進路目標の達成	○公務員合格率 ７０％ ※国家公務員や県警察等への挑戦 ○県内就職率 ８０％ ※故郷熊本を支える地方創生への積極的推進 ○進学１次合格率 ９０％ ※個性を生かした総合型選抜、学校推薦型による推薦入学試験への挑戦	○面接指導の充実 ※全職員での面接指導の実践 ○各校務分掌との連携 ※総合学科研究部（キャリア教育）※ＩＣＴ運営部（タブレット活用）※教務部（学習支援ツール活用等） ○関係外部機関との連携 ※大津町役場（企業振興課） ※大津町企業連絡協議会 ※県北地域企業 ※県雇用環境整備協会 ○個性を活かした大学推薦入試や大学入学共通テストへの挑戦 ※国公立大学への挑戦	Ａ	○公務員合格率 ６６％ 熊本市職にトップで内定をいただいた。 ○県内就職率 ８８％超 ○進学１次合格率 ９０％超 国公立大に１名合格した。 ○全職員での面接指導も充実。 ○役場との連携もスムーズである。
		早期離職・上級学校退学の防止	○適応指導の充実 ○進学・就職内定合格後の指導	○熊本しごとコーディネーター兼高校生キャリアサポーター配置 ※企業訪問、面談等の計画 ※保護者の理解（集会・ＨＰ等） ○情報収集 ※オープンキャンパスや職場見学等の実施	Ａ	○しごとコーディネーター兼高校生キャリアサポーターの配置により、生徒へのアドバイスが充実した。
生徒指導	生活指導	基本的生活習慣の確立	○容儀の再指導生徒各年次２０人以下 ○挨拶の徹底 ○整理整頓の徹底 ○特別指導件数１０件以下 ○無断アルバイトの根絶 ○盗難件数　０件	○風紀委員と連携して事前の準備を促し、自ら考えさせる容儀指導・生活指導の実施 ○職員の共通理解による粘り強い指導 ○コミュニケーションの始まりである挨拶の重要性への理解と習慣化 ○ロッカー上に荷物をのせて帰宅しない指導と施錠の徹底、私物管理力の向上 ○登校指導時の気になる生徒への声掛けと支援会議等での情報共有	Ｂ	○容儀再指導は、１・２年次は概ね達成できたが３年次は４０名程度見られた。 ○挨拶は部活動生を中心に実践できており、地域からも高い評価を得られている。 ○整理整頓についてはロッカーの上に物を置いて帰る生徒は殆ど見られない。 ○特別指導件数は昨年度と比較し減少したが、現在までに１１件発生している。 ○無断アルバイトはいなかった

						○盗難件数は現在３件。ロッカーや鍵の正しい使用法について、継続した指導が必要である。
		自主自立の育成	○生徒会活動の活性化	○生徒会執行部の主体的活動による体育大会、翔陽祭等の行事の充実	A	○生徒会の活躍で今年度は体育大会において生徒が団席外に居ることが殆ど見られなかった。 ○翔陽祭では翔陽アンブレラという生徒主体の試みが見られた。
	交通安全指導	交通安全教育の充実	○外部からの苦情件数、月２回以下 ○重大事故　０件 ○二重ロック率　８０％以上	○交通安全講話・通学方法別集会の実施や交通委員による定期的な交通ルールへの規範意識向上の呼びかけ ○単車通学生への実技講習及び安全指導（年３回） ○自転車通学生への安全指導の実施 ○危険予知能力を向上させるためのＬＨＲの実施 ○点検の実施と呼びかけによる自転車施錠率の向上（現在二重ロック率６０％程度）	B	○今年度は大津警察署より講話を頂いたり、行事や集会時に地域の交通事情を生徒へ周知したり交通安全週間に登校指導等を行った。 ○単車通学生への実技講習及び安全指導は今年度２回実施した。 ○自転車通学生への安全指導は通学方法別集会及び交通講話、一斉登校指導、交通安全週間時の指導を実施した。 ○危険予知能力を向上させるためのLHRは実施できていない。 ○今年度学校近辺の交通量の増加から予測される交通事故のリスクについて啓発等を行い、現在１１件の事故が発生している。重大事故については骨挫傷が１件あった ○職員による登校指導や交通委員の呼びかけ等を行ったが、自転車の二重ロック

						についてはいまだ今年度も６０%程であった。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	○さまざまな活動への意欲的参加	○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集	B	○放置傘を活用し翔陽アンブレラという名でレンタル傘を設置し急に傘が必要な場合に活用できた。 ○今年度は道路清掃ボランティア活動が手続き上難しくなったことからタイムリーな活動ができなかったので他の活動を検討していきたい。
	部活動の推進	心身の健全育成	○部活動加入の推奨 ○自尊感情の育成 ○奉仕精神の育成	○魅力ある部活動の実施と施設設備の充実による地域の中学生へのアピール ○部活動実績のホームページでの紹介 ○キャリア教育との連携 ○部活動生徒による模範的な行動の実施	B	○体験入学で部活動の体験を行ったり、地域の中学生と合同で活動したりすることで本校の部活動をアピールすることができた。 ○今年度も部活動の実績を紹介した。 ○今年度は４６件の活動をＨＰにアップした。部活動によって差が見られた。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	○人権問題についての正しい知識と認識の深化 ○身のまわりにある様々な差別を見抜き、許さず、正しく行動できる力の育成	○定期的な校内職員研修の実施と校外研修への積極的な参加 ○校内人権集会、人権教育ＬＨＲ、人権教育講演会の実施	A	○新転任者研修、旭志支部解放保護者会との交流学習会、外部講師による人権教育講話の実施および校外研修への参加案内を行い、職員と生徒の人権意識の向上に努めた。
	教育相談	教育相談活動の充実	○一人一人の生徒のニーズに応じた支援体制の確立と強化 ○悩み相談体制の充実	○職員同士の情報共有体制の強化 ○保護者・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、専門機関との連携 ○個別の教育支援計画・指導計画の策定 ○通級指導の実施	B	○年２回の生徒理解研修を通して共通理解を図った。 ○専門家（SC 面談２０回）の助言を受けながら生徒や保護者の支援を行った。 ○２名の生徒に通

						級指導を実施した。支援希望３名の生徒の指導計画を立て支援につなげた。
	命を大切にする心を育む指導	自他を尊重する心と社会規範を遵守する生徒の育成	○「生命の大切さ」の指導の徹底 ○生徒の自発的・自律的な道徳的行為の涵養への取組	○道徳教育全体計画の検証 ○命を大切にする観点からの授業、人権教育ＬＨＲの実施 ○生徒・保護者への広報・啓発	Ｂ	○年次や生徒指導部とも連携し、週１回の生徒情報交換会を通して、生徒の状況把握や早期対応に努め、自他ともに大切にする心の育成に努めた。

いじめの防止等	安心安全な学校生活	いじめを生まない環境づくり	○いじめ防止対策へ向けた組織対策の確立 ○重大対応マニュアルの職員への周知 ○保護者との連携強化 ○いじめ未然防止と早期発見 ○ＳＮＳ被害防止への取組	○いじめ防止対策委員会（３回）・小委員会（４回）の開催 ○家庭訪問及び定期的な個人面談の実施 ○いじめ実態把握調査の実施（年２回のアンケート実施） ○教育相談の活性化 ○外部専門家からの指導助言 ○生徒会、委員会による啓発活動 ○スクールサインを利用した早期発見 ○ＳＮＳ被害防止のための講演会や全校集会での啓発 ○保護者集会での啓発	Ｂ	○いじめ防止等対策委員会により積極的に認定し担任、年次、管理職と連携して対応したものもあり、組織として行動することができた。その他は担任で早期に対応し場合によっては生徒部と連携し保護者対応を行った。未然防止の取組ができた。 ○年度当初に重大対応マニュアルの確認を全職員対象に行った。 ○生徒指導部、生徒会、風紀委員会それぞれで役割を分担し、各学期の始まりと終わりや各行事、生徒総会等でＳＮＳの使い方やいじめ防止について注意喚起に取り組んだ。 ○スクールサインを利用した通報により気になる生徒の見守りや情報共有ができた。 ○入学説明会や進路説明会等で保護者に対し、ＳＮＳやいじめ防止について外部講師を招き講演を実施した。
保健管理	健康教育	健康な体と豊かな心の育成	○健康観察の充実 ○感染症対策の実施 ○健康教育の充実 ○よりよい生活習慣の推進	○担任の朝の健康観察による体調不良者の把握 ○全職員による感染症の予防的対応 ○個別面談、保健指導の実施	Ａ	○新型コロナの５類移行に伴い、体調不良者対応の方針も変わったことから、保健室利用がしやすくなったと考えられる。（生徒アンケートR4 3.0→R5 3.3）。また来室者の対応を丁

						寧にできる分、SC につないだり問題を早期に把握したりできるようになった。 ○感染症予防については今後も継続し、全職員に対して理解と協力を得られるよう引き続き啓発していく必要がある。
		救急救命研修会の実施	○応急処置及び救急救命蘇生法研修会の計画と実施	○蘇生法、緊急時対応についての全職員による共通理解 ○実技の多い科目の職員に対する特別講習会の実施	A	○今年度は全職員対象に研修会を実施することができた。職員に対する研修後アンケートでは、97%の職員が「救急蘇生の不安を軽減できた」と回答していることから、危機管理のための重要な研修として毎年実施する必要がある。
教育環境整備	安全管理	施設設備の安全管理	○安全点検の確実な実施 ○危険箇所への確実な対応 ○ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ等の啓発資料等の周知	○「安全点検週間」を設けることによる実施率の向上 ○点検結果の集約及び関係職員又は前職員への周知 ○防災避難訓練の徹底、校内の避難経路の作成と周知、登下校時の指定避難場所の周知	A	○評価後のアンケートをもとに再検討用の覚書を作成。 ○施設面における課題(危険箇所)については管理職に相談し、改善していく
	学校版環境 ISO の推進	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	○５Ｓ活動の充実 ○節電・節水（省エネ推進） ３～１０%の削減 ○ゴミの減量化 可燃ゴミ重量昨年比、５%減少	○あらゆる場面での整理・整頓・清掃・清潔・躾の指導徹底 ○ゴミ分別の徹底 ○ゴミ持ち帰り活動の啓発 ○環境美化コンクールの実施 ○「節電・節水」の掲示物等の活用	B	○月に１度、５Ｓ活動の生徒への周知を美化委員会で取り組んだ。清掃に対する取組が課題である。 ○ゴミの分別においては再度分別を周知する等、意識を高める必要がある。 ○ゴミの持ち帰り啓発についてはペットボトルや空き缶の持ち帰りの呼び掛けや捨てる場所の制限などに取り組んだ。今後も学

						校全体での取組が必要である。 〇環境美化コンクールは今年度も実施できていない。来年度実施に向けて準備する。 〇水の無駄遣いは見られないが、節電に関しては未使用教室の電灯やエアコンのつけっぱなしが見られるため、節電について生徒への継続した指導が必要である。
	教育の情報化	学校組織的としての教育情報化の推進	〇学校情報化認定の更新 〇情報活用能力育成の教育課程上の位置づけ	〇学校情報化認定の３年ごとの更新に向けた取り組みの周知 〇チェック項目の集計、および認定更新に向けた情報提供	A	〇授業や校務のＤＸ化を進め、ＩＣＴを活用した授業や校務が当たり前になってきた。これにより認定のエビデンスも得られ、令和６年度前半での再認定に取り組む。
		授業における効果的なＩＣＴの活用の推進	〇全教職員のＩＣＴを活用した指導力の向上 〇全生徒のＩＣＴを利用した情報活用能力の向上	〇外部講師を活用した定期的な職員研修の実施 〇校内における活用方法の共有（ミニ研修や広報の作成） 〇公開授業等でのＩＣＴ機器を活用した授業の積極的な参観 〇各種講習会の紹介及び受講の促進 〇各授業や諸活動での端末の積極的な利用の促進 〇ＬＨＲや集会等での活用能力の向上や情報モラルの意識向上 〇生徒同士の自治的な活用の促進（生徒会やＩＣＴ支援生徒サポーターの活用）	B	〇現状の課題に則した研修会の内容を考え、実施することができている。 〇ミニ研修会で、新しい活用方法など公開しているが、受講者が少ないため横のつながりを強め教師同士の教えあいの機会を増やす。 〇生徒の情報モラル向上に向け、まずは教師の意識向上のため、業務の見直しを行い学べる環境づくりが必要である。

		ＩＣＴ機器等の適正な管理と利用促進	○安心してＩＣＴを活用できる環境の整備	○ＩＣＴ機器の管理状況の把握 ○講義室等に常備されている機器の管理 ○ＩＣＴ機器の活用研修の実施 ○ネットワーク環境の充実 ○ＩＣＴ支援員を活用した利用促進に対する対応	Ｂ	○分掌内での機器の把握など徹底されてきた。 ○分掌の職員だけではなく、全職員での管理意識を持つよう、働きかけを行う必要がある。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校行事を通した連携	学校行事等の開放と交流	○地域住民との連携	○地域花壇の管理 ○福祉施設との交流	Ａ	○正門通りの道路に年２回の花植えと除草管理ができた。また、福祉施設に庭つくりに行くことができた。
			○近隣の小学校・中学校・大津支援学校との交流及び共同学習	○農作業体験学習 ○共同学習等	Ａ	○小学校との交流では播種や収穫体験を行い、支援学校など馬術部の馬とのふれあい体験や乗馬体験を行った。
			○同窓会との連携	○学校支援、後輩への激励 ○海外学習の支援	Ａ	○全国大会・総体・総文・海外研修等に奨励金支援を行った。
	保護者との連携	学校理解の推進	○育友会との連携 ○保護者への新連絡システムの導入 ○保護者の意見集約確認 ○保護者との情報共有	○育友会活動の効率化による負担軽減 ○育友会レクリエーション、翔陽祭バザー、長距離走大会豚汁支援、登校指導、校外補導等の連携実施 ○新連絡システム「すぐーる」導入による連絡の促進 ○Ｆｏｒｍｓを利用した保護者へのアンケートによる意思の確認 ○学校支援、海外学習の支援 ○育友会総会、公開授業週間を活用した学校教育活動の理解促進 ○育友会広報誌「翔陽」の充実	Ａ	○育友会総会を含め全ての行事を実施することができた。 ○すぐーるを活用し、育友会で集まっての連絡や会議を３０％削減できた。また、Ｆｏｒｍｓのアンケートも活用し効率化ができた。 ○同窓会と連携し総体・総文・海外研修等に奨励金支援を行った。

	地域との連携	連携体制の充実	○地域と連携した施策の推進	○ホームページやメール等の活用による学校の取組等の情報発信 ○学校運営協議会を年２回実施 ○地域関係機関との定期的な意見交換 ○クリエイトハイスクール「ＫＡＲＡＩＭＯ学」プログラムの実践 ○地域と連携した教育活動の推進と評価・点検	Ａ	○新聞や広報、ホームページ等を通して学校の取組や生徒の活躍を発信できた。 ○学校運営協議会は６月と２月に２回開催した。出席者数が昨年度と比べ増加した。 ○多くの教育活動において地域の協力や多数の参加をいただき、開かれた学校づくりにつながった。

４ 学校関係者評価

・ＴＳＭＣの進出などもあり、劇的に環境が変わると想定されるので、それを加味した学校経営を期待したい。
・ボランティアについて、日本語指導のボランティアをしている生徒もいたようだ。今後、小学校でも日本語指導が必要な生徒が入学してくるため、高校生のボランティアに期待する。
・家庭学習時間が少ないようだ。翔陽高校では宿題を課されないが、毎日宿題があれば家庭学習をするのではないか。
・翔陽高校生の勉強へのモチベーション、何のために勉強しているのかに関心がある。
・企業説明会において、翔陽高校生の聴く態度は年々良くなっている。就職している卒業生と在校生とのコミュニケーションも良好である。
・インターンシップやデュアルシステム等の職場体験が充実しているが、体験した職種を就職先に選ばない場合も多いようだ。それぞれの職種の魅力がもっと伝わればいいと思う。
・翔陽高校生はインターンシップにも熱心に取り組んでいる。近年は、大津町への注目が高まっており、優良企業が多いので、生徒に紹介できる機会を増やしてもらえればありがたい。
・いじめに限らず、生徒同士のトラブルなども気軽に警察に相談してほしい。

５ 総合評価

１ 本年度の学校教育目標

「未来のくまもとを支える地域人材の育成」を目標として、本校の教育スローガンである「自ら気づき、考え、行動する」を全ての教育活動において意識して実施した。探究的な学びの実現に向けて、本年度も継続して職員研修を実施するなどして、学校全体で取り組むことができた。特に１年次の「産業社会と人間」、２年次の「インターンシップ」、３年次の「総合的な探究の時間」「デュアルシステム」などの一貫したキャリア教育に学校全体で取り組んだことは、教職員全体の探究的な学びに係る指導力向上に大きく貢献している。

２ 本年度の重点目標

体育大会や文化祭（翔陽祭）等の学校行事のほか、修学旅行やキャリア教育発表会等における生徒の活動の様子からも成果が見て取れた。評価アンケートや生徒の進路状況等にも取組の成果が表れている。特に、就職に関しては、菊池管内就職が６割を超え、県内就職が９割近くに達するなど、外部の組織や機関と連携しながら取り組んだ成果が出た。グローバルな視点と能力を身に付けた人材の育成については、コロナ禍で実施できていなかった台湾への修学旅行を４年ぶりに実施した。また大津町や地域の専門学校との連携により、訪問団や留学生との交流会等を実施することで多文化理解に繋げることができた。

今後も、普通、農業、工業、商業、家庭の系列を有する総合学科の多様な教育内容や教育活動、それらを生かしたキャリア教育を充実させることにより、夢の実現に向かって、主体的に未来を創造し、くまもとを支え社会に貢献できる地域人材の育成を目指す。

３ 自己評価総括表

【学校経営】「総合学科の特色づくり」に関して、進路に合わせ多様な科目選択ができるカリキュラムは本校の最大の特徴であり、学校評価アンケートにおいても生徒の評価が上昇した。「開かれた学校づく

り」に関して、情報の発信は、学校ＨＰを中心にＸ（旧ツイッター）、Youtube 等での情報発信を行っている。今年度は、修学旅行や進路説明会等の学校行事ごとに臨時でＨＰを開設し、保護者への限定公開で動画や写真、資料等を配信する取組も行った。保護者アンケートでも高い評価を得ている。地域企業との連携は、大津町企業連絡協議会の協力により約２０社による職業ガイダンスを実施した。「業務改善」については、総合学科の特性として職員間で共有すべき情報が多く、系列間での調整は多岐にわたる。職員アンケートでは、関連する３項目の内２項目で前年度の評価を下回る結果となった。「働き方改革」について、職員一人当たりの月ごとの時間外勤務の平均は、昨年度の４１時間１５分から今年度は４０時間１０分に短縮し、有給休暇の取得は目標を達成できた。

【キャリア教育】「キャリア教育の推進」に関して、キャリア教育は本校の多様な教育の軸となる学びであり、これを主に担う科目は、1 年次の「産業社会と人間」２、３年次の「総合的な探究の時間」である。評価アンケートや生徒の進路状況等から、取組の成果が表れていると考える。「進路保障」に関して、就職、進学においてはそれぞれ目標を達成することができた。早期離職、上級学校退学の防止に関しては、ミスマッチを防ぐことを主眼に、本校配置のしごとコーディネーターが進路選択前、進路選択時、内定後と複数回に分けて面談を実施している。

【生徒指導】「生活指導」に関して、生活指導で重点的に指導する内容は、容儀と挨拶である。容儀に関しては年間を通じて減少し、挨拶も良好な状況である。生徒アンケートの結果からも、生徒が本校の取組をよく理解していることが分かる。特別指導は前年度から半減したものの、今後も根絶に向けた取組が必要である。「交通安全指導」に関しては、大津警察署に協力いただき、安全講話やＤＪポリス等を実施することができた。自転車の事故については、１２月現在までで１１件と大きく減少した。「ボランティア活動の推進」について、定期的なボランティアとしては、隣の室小学校の放課後学習会をサポートする学び場チューターがある。また熊本大津ライオンズクラブの支援を受けて近隣の高齢者介護施設への手作りプレゼントの配付を行った。さらに大津町や福祉協議会からの案内を受けての祭り等の補助など様々なボランティア活動を行っている。「部活動の推進」については、全国大会や九州大会の常連となっている部活動をはじめ、それぞれの部活動が目標を持って活動に取り組んでいる。

【人権教育の推進】「人権意識の向上」に関しては、生徒アンケートで自己肯定感や他者の尊重という観点での評価が高いことから、人権意識や人権感覚の育成は達成されている。「教育相談」については、生徒アンケートで評価が上昇した一方で、保護者アンケートでは下降した。「命を大切にする心を育む指導」と「安心安全な学校生活」については、両項目とも評価をＢとした。共通して重要なのがいじめの防止である。本年度１２月までの本校のいじめの認知件数は１３件であり、前年度同時期の１６件から減少した。関係するアンケート項目「翔陽高校では、学校生活において、命の大切さ、安心安全、心の問題などに関する指導が行われ、いじめのない学校づくりに取り組まれている」が、生徒、保護者ともに前年度の評価から向上した。

【保健管理】「健康教育」については、生徒アンケートの項目「あなたが体調不良の時など、保健室は利用しやすい」の評価が向上し、健康指導の観点からも非常に望ましい状況である。

【教育環境整備】「教育の情報化」に関して、本校は県内でいち早く情報化推進の優良校に認定され、以来継続して教育の情報化の推進を図っている。現在の推進状況は県内高校随一と言っても良いレベルである。授業におけるＩＣＴの活用は、教科毎に差があることが課題ではあるものの、活用の頻度と活用技術は着実に向上している。

【地域連携】学校行事を通した地域との連携については、３項目とも評価をＡとした。正門前の県道の道路花壇は、大津町に本校の花苗を購入いただき、生徒の学習の一環として苗植えや除草などの管理をしている。隣の室小学校は毎年本校の実習農場で体験活動を行っている。また生徒が近隣の老人ホームの作庭の機会をいただいたり、保育園の子どもたちが前庭や馬術部の馬を見学に来たりと交流を続けている。

６ 次年度への課題・改善方策

【学力向上】公開授業の参観状況は昨年度よりも改善しているものの、まだまだという状況であった。最も大きな課題が学習習慣の確立である。スマートフォンの普及とともに、生徒の家庭でのネット利用時間は、確実に学習時間と睡眠時間を侵食しており、平常時の学習時間は昨年度からさらに４分短くなっている。大いに課題となる結果であった。家庭学習時間の状況等も踏まえながら、部活動時間の適正化等をさらに進め、今後はバランスの取れた学校生活全体の充実を図ることが必要である。

【生徒指導】「ボランティア活動の推進」について、生徒アンケートからは、本校がボランティア活動を積極的に推進していることは、生徒たちにもよく認知されていることが分かる。課題としては、ボランティア活動への参加に消極的な生徒もいることであり、そのような生徒が積極的に参加したくなるような活動を企画し、実行する必要がある。

【人権教育の推進】「教育相談」に関して、保護者アンケートでは項目「翔陽高校では、スクールカウンセラーを活用しやすい環境にあると思う」の評価が下降し、ＳＣの活用について保護者への周知が十分でないことが課題となっている。今後は「すぐーる」等も利用して保護者への案内や周知を行っていく予定である。